



島原城での歓迎の様子

大歓迎に感動！

島原市への友好交流訪問

平成28年11月6日、7日の日程で大須賀一誠町長をはじめ100人の幸田町民が島原市を訪問しました。

6日早朝に幸田町を出発した訪問団はお昼ごろに島原市に到着。歓迎式が行われる島原城へバスで向かう途中では、島原市内の所々で「幸田町訪問団歓迎」の横断幕と町草の入った手旗を持ってバスに手を振る島原市民のお出迎えがありました。そして、島原城に着くと古川隆三郎市長をはじめ、多くの島原市民の皆さんが盛大にお出迎えをしてくださりました。

歓迎式では、1669年に藩主松平忠房公が島原に入る際に、当時の島原の人たちが歓迎のために着のみのままハテンに前掛け姿で踊ったとされる「先踊」を島原市の小学生が披露。そして、島原県立島原農業高校の生徒による和太鼓演奏も行われ、島原市民による大歓迎に幸田町訪問団の一行は感激していました。

歓迎式で古川市長は、「父や母、兄弟が来たような気持ち。心より歓迎する。」とあいさつされ、大須賀町長は、「住民同士の交流で絆がさらに深まると信じている。」と歓迎の言葉にこたえました。

歓迎式後は、島原観光ボランティアの



大歓迎に感激する幸田町訪問団



歓迎式で披露された「先踊」



交流会で披露された島原の「子ども狂言」



島原本光寺で住職の法話を聞く幸田町訪問団



土石流被災家屋保存公園を見学



交流会で打ち解けた様子の参加者たち

案内で島原城と、日本三大薬園跡の一つである島原藩旧薬園跡を視察し、その後、島原市の本光寺を訪れ、住職の法話を聞きました。

そして、初日の夜には島原市民112人と幸田町民100人による交流会が開催され、昨年幸田町へ訪問された人との再会を喜ぶ声や新しい出会いなどがあり両市町民の交流がさらに深まりました。

翌7日は雲仙普賢岳噴火災害犠牲者追悼の碑で献花・黙祷し、訪問団で犠牲者の追悼を行いました。その後、雲仙岳災害記念館で、自然の驚異、島原市の復興への取り組みを学び、火山と共存する島原市民の生活を知りました。

その後、清流亭で行われた見送り式には多くの島原市民が見送りのために駆け付けてくださいました。見送り式のあいさつで古川市長は「家族である幸田町民の皆さまをまだ帰したくない。」とあいさつされました。そして、バスに向かって見送りの場面では、別れを惜しみ涙しながら再会を約束する島原市民、幸田町民の姿が見られました。

後日、参加者の一人が、島原市訪問時の気持ちを歌った俳句を島原新聞に投稿して掲載されたと、送られてきた紙面を持って報告に來られました。今回の訪問をきっかけにさらなる交流が始まっています。

問合せ 企画政策課政策グループ

(内線331)



見送り式後、別れを惜しむ姿が見られました



雲仙普賢岳噴火災害犠牲者追悼の碑での献花